労働災害統計記入担当者(安全衛生担当者)に必ずお渡しください

平成 31 年 3 月

会 員 各 位

(公社)神奈川労務安全衛生協会
労 働 災 害 統 計 委 員 会

労働災害統計票（平成 30／10 ～ 平成 31／3）提出依頼について

貴社益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

労働災害統計委員会では、神奈川労働局の指導により会員各事業場における労働災害発生の実態調査を年 2 回(上半期、下半期)実施しております。その集計結果は、会員事業場における労働災害防止のための貴重なデータとして広く関係者に活用されております。〔今回の集計結果については 2019 労務安全衛生かながわ 7 月号に同封します。(当協会ホームページにも掲載)〕

事業場における労働災害の一段の減少とより正確なデータの収集を目指しておりますので、労働災害発生の有無に関係なく統計票の提出につきまして、会員各位の一層のご協力をお願い申し上げます。

なお、ご提出いただいた統計データは本統計の集計のみに活用し、個々の企業名・データを監督官庁はじめ外部に公表することは一切ございません。

※ 災害がゼロの場合でも、労働者数と延労働時間数および年齢別労働者数を記入し、提出願います。

記

1. 提 出 期 限　　平成 31 年 4 月 25 日(木)　　期日厳守
2. 提　出　先　　所属支部の下記担当事業場宛にＦＡＸで送付してください。
3. 問 合 せ 先　　(公社)神奈川労務安全衛生協会 本部〔総務部〕　TEL 045-662-5965

支部名	ＦＡＸ	事　業　場　名	ＴＥＬ
川崎北	044-811-7967	㈱光洲産業　総務部 安全衛生担当	044-822-0795
川崎南	044-221-9083	川崎南支部　事務局	044-221-9082
鶴　見	045-500-3112	ジャパンマリンユナイテッド㈱横浜事業所 安全衛生グループ鶴見安全衛生チーム	045-500-3114
横浜北	045-453-9713	楠原輸送㈱　安全管理部	045-450-2044
横浜南	045-757-7090	ＪＸＴＧエネルギー㈱根岸製油所 環境安全グループ	045-757-7154
横浜西	045-811-3011	㈱紀文食品 横浜工場　労務管理課	045-811-3111
横須賀	046-845-9510	横須賀支部　事務局	046-845-9522
藤　沢	0467-74-4014	旭ファイバーグラス㈱湘南工場　事務グループ	0467-75-0511
平　塚	0463-21-8208	古河電気工業㈱平塚事業所　総務課長	0463-21-8200
小田原	0465-24-5820	小田原支部　事務局	0465-24-1753
相模原	042-771-4244	相模原機械金属工業団地協同組合　総務課	042-772-1546
厚　木	046-228-9541	厚木支部　事務局	046-228-6660

● 協会ホームページにはエクセル版の提出用紙があります。
計･度数率･強度率の欄が自動計算なのでご活用ください。 http://www.roaneikyo.or.jp

災害がゼロの場合でも、労働者数と延労働時間数および年齢別労働者数を記入し、提出願います。

労働災害統計票（平成○/○ ～ 平成○/○）　記入要領

●協会ホームページにはエクセル版の提出用紙があります。
計･度数率･強度率の欄が自動計算なのでご活用ください。http://www.roaneikyo.or.jp

所属する支部名を記入してください。

提出先　　支部
労働災害統計委員　殿

記　入　例

事業場名　　○○産業㈱厚木工場
担当者所属･氏名　総務課　厚木太郎　　TEL　040（220）0000

･死亡又は障害（障害等級に該当する場合）の損失日数

区分	死亡	障害等級		
		1級	2級	3級
損失日数	7,500	7,500	7,500	7,500

区分	障害等級				
	4級	5級	6級	7級	8級
損失日数	5,500	4,000	3,000	2,200	1,500

区分	障害等級					
	9級	10級	11級	12級	13級	14級
損失日数	1,000	600	400	200	100	50

・上記以外の休業損失日数

算出方法：休業日数×$\frac{300}{365}$（0.82）＝損失日数
（少数点以下切捨）

例えば休業日数が33日の場合は、損失日数27となる。
ただし、休業日数が1日の場合は計算上はゼロとなるが損失日数は1日と記載してください。
休業日数が確定していない場合については見込みの休業日数を基に算出し記載してください。
なお、障害等級が確定していない場合についても見込みの障害等級で記載してください。

労働災害による死傷者数を以下の項目毎に分類し、記入してください。（パート・アルバイト・派遣社員を含みます）
・死亡
・永久全･一部労働不能
・休業（4日以上）
・休業（1～3日）
※以下は除外してください。
1. 不休災害
2. 通勤途上の災害（通災）

1. 月末労働者数・延労働時間数および労働災害による死傷者数

区分／月別	労働者数（人）	延労働時間数（時間）	労働災害による死傷者数					損失日数		
			死亡	永久全一部労働不能	休業（4日以上）	休業（1～3日）	計		度数率	強度率
○/○月	74	15,607				1	1	2		
○月	75	14,202								
○月	75	14,876			1		1	14		
○月	75	13,949		1			1	50		
○月	74	13,920								
○月	75	15,133								
計	448	87,687		1	1	1	3	66	34.21	0.75

（※1）

延労働時間数、度数率、強度率算出式

延労働時間数＝（出勤延人員×所定労働時間）
＋時間外労働時間数

度数率＝$\frac{\text{労働災害による死傷者数}}{\text{延労働時間数}}$ × 1,000,000

強度率＝$\frac{\text{損失日数}}{\text{延労働時間数}}$ × 1,000

月末の労働者数を記入してください。
（パート・アルバイト・派遣社員も含みます）

(※1)は同一数字となる

算出式により少数点以下3位まで求め、3位目を四捨五入し記入してください。
本記入例の数字を使って算出すると次のようになります。

例　$\frac{3\text{人}}{87,687\text{時間}}$ × 1,000,000＝34.212 四捨五入≒34.21

・度数率とは、100万時間当たり何人の発生かをみる。

その月に各労働者が実際に働いた時間数
（総労働時間数）を集計し記入してください。
延労働時間数＝（出勤延人員×所定労働時間）＋
時間外労働時間数（休日出勤を含む）

2. 年齢別労働者数

（平成○年○月末現在）

満年齢	労働者数（人）
20歳未満	3
20 ～ 29歳	17
30 ～ 39歳	22
40 ～ 49歳	20
50 ～ 59歳	8
60歳以上	5
計	75

過去1年間の、いずれかの月末労働者数を満年齢毎に分類し、記入してください。

3. 災害内容分析

（1）被災者の年齢別および経験年数別（労働災害による死傷者数を分類し記入する）

満年齢／経験年数	1年未満	1年以上3年未満	3年以上10年未満	10年以上	計
20歳未満	1	1			2
20 ～ 29歳					
30 ～ 39歳					
40 ～ 49歳					
50 ～ 59歳				1	1
60歳以上					
計	1	1		1	3

（※1）

（2）災害発生原因の態様（労働災害による死傷者数を分類し記入する）

不安全行為／不安全な人的要素	指図を無視した	知っていてやらなかった	他のことを考えていた	とっさの処置をした	安易な気持ちであった	習慣的（慣れ）となっていた	作業に不慣れ未熟であった	安全知識が不足していた	心身不調であった	第三者に不安全要素があった	その他の不安全要素	計
合図、連絡が不徹底のまま動作した												
安全装置を無効にした												
機器の操作を誤った							1					1
間違った機器を使った												
無理な姿勢で動作した						1						1
確実に持たなかった												
作業状態を確かめなかった												
保護具の使い方が悪かった												
第三者に不安全行為があった												
その他の不安全行為											1	1
計						1	1				1	3

（※1）

1項に記入した災害の人的原因の内容を
不安全行為（災害に結びついた危険な動作のことであり、その代表的なものが10項目タテに記載してある）
不安全な人的要素（前記の不安全行為のキッカケとなったことがらであり、その代表的なものが11項目ヨコに記載してある）に分類し、死傷者数を記入してください。

算出式により少数点以下3位まで求め、3位目を四捨五入し記入してください。
本記入例の数字を使って算出すると次のようになります。

例　$\frac{66\text{日}}{87,687\text{時間}}$ × 1,000＝0.752 四捨五入≒0.75

・強度率とは、1,000時間当たり何日損失したかをみる。

1項に記入した死傷者数を年齢別、経験年数別に分類し、人数を記入してください。
例えば、年齢55歳で作業経験20年の作業者の災害について記入するとすれば、タテの区分は50～59歳で、ヨコの区分は10年以上のところとなります。

災害がゼロの場合でも、労働者数と延労働時間数および年齢別労働者数を記入し、提出願います。

労 働 災 害 統 計 票(平成 30／10～ 平成 31／3)

●協会ホームページにはエクセル版の提出用紙があります。

↓所属支部を記入　　計・度数率・強度率の欄が自動計算なのでご活用ください。http://www.roaneikyo.or.jp

提出先　　支部
労働災害統計委員　殿

事業場名

担当者所属・氏名　　TEL

1. 月末労働者数・延労働時間数および労働災害による死傷者数

別紙記入要領を参照のうえご記入ください

区分／月別	労働者数（人）	延労働時間数（時間）	労働災害による死傷者数					損失日数
			死亡	永久全一部労働不能	休業（4日以上）	休業（1～3日）	計	
30/10 月								
11 月								
12 月								
31/1 月								
2 月								
3 月								
計								

（※1）

延労働時間数＝（出勤延人員×所定労働時間）＋時間外労働時間数

$$度数率＝\frac{労働災害による死傷者数}{延労働時間数}\times 1,000,000$$

$$強度率＝\frac{損失日数}{延労働時間数}\times 1,000$$

度数率	強度率

少数点以下3位を四捨五入

2. 年齢別労働者数

（平成　年　月末現在）

満年齢	労働者数（人）
20 歳未満	
20 ～ 29 歳	
30 ～ 39 歳	
40 ～ 49 歳	
50 ～ 59 歳	
60 歳以上	
計	

3. 災害内容分析

(1) 被災者の年齢別および経験年数別（労働災害による死傷者数を分類し記入する）

満年齢＼経験年数	1 年未満	1 年以上 3 年未満	3 年以上 10 年未満	10 年以上	計
20 歳未満					
20 ～ 29 歳					
30 ～ 39 歳					
40 ～ 49 歳					
50 ～ 59 歳					
60 歳以上					
計					

（※1）

(2) 災害発生原因の態様（労働災害による死傷者数を分類し記入する）

不安全な人的要素／不安全行為	指図を無視した	知っていてやらなかった	他のことを考えていた	とっさの処置をした	安易な気持ちであった	習慣的（慣れ）となっていた	作業に不慣れ未熟であった	安全知識が不足していた	心身不調であった	第三者に不安全要素があった	その他の不安全要素	計
合図、連絡が不徹底のまま動作した												
安全装置を無効にした												
機器の操作を誤った												
間違った機器を使った												
無理な姿勢で動作した												
確実に持たなかった												
作業状態を確かめなかった												
保護具の使い方が悪かった												
第三者に不安全行為があった												
その他の不安全行為												
計												

（※1）は同一数字となる　　（※1）

提出期限　平成 31 年 4 月 25 日(木)